

分野横断権利情報データベースに関する研究会

背景・目的

- 文化審議会において、「簡素で一元的な権利処理方策」の実現のため、**分野横断権利情報データベースを構築**し、それを活用して著作物の種類や分野を横断した一元的な窓口が著作権者等の探索を行うといった方向性が示されている。
- 本研究会では、分野横断権利情報データベースの構築に向けて、**著作物の分野毎の関連団体における取組の現状をヒアリング**するなど、**実現可能性や技術面の課題を踏まえ**つつ、検討を行う。

主な検討事項

- 分野横断権利情報データベースの**あり方**
- データベースの**利用ニーズや目的**
- データベースに**必要な情報**、フォーマットの標準化
- IDやコードによる紐付け
- 関連団体等のデータベースとの**連携方策** 等

構成員

- | | |
|---------|---|
| 奥邨 弘司 | 慶應義塾大学大学院法務研究科教授 |
| 北浦 康司 | 公益社団法人著作権情報センター
事務局長（専務理事） |
| ◎ 喜連川 優 | 国立情報学研究所所長
東京大学特別教授 |
| 河野 康子 | 一般財団法人日本消費者協会理事 |
| ○ 末吉 亙 | 弁護士 |
| 土肥 一史 | 授業目的公衆送信補償金等管理協会
理事長（代表理事） |
| 畑 陽一郎 | 一般社団法人日本レコード協会
常務理事・事務局長 |
| 福井 健策 | 弁護士 |
| 洪 性鉦 | 一般社団法人日本出版インフラセン
ター出版情報登録センター知的財産
部会部会長 |
- ◎ 座長 / ○ 副座長

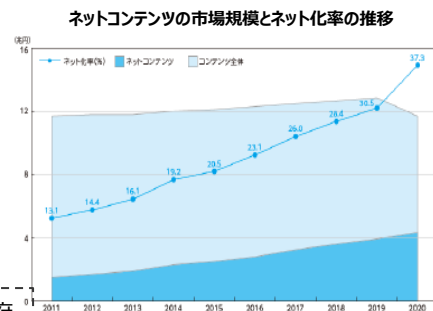
今後について

- 会議の成果物は審議会において報告する予定

背景・課題

- Web3.0時代において、仮想空間での活動が拡大する中においては、国境を越えて個人を含む多くの主体が大量で多種多様なコンテンツを消費
- 著作物の2次利用や2次創作の際、著作物の数が多く、また、様々な分野が複合的であることから、権利処理コストが高いことが課題
- 令和5年通常国会に簡素で一元的な権利処理を可能とするための著作権法の改正案を提出予定
- 権利処理に係る探索コストを低減させるためには、利用ニーズの高い著作物の権利情報集約化が必要

知的財産推進計画2022（抜粋）：分野横断権利情報データベースについては、…（省略）…府省庁横断的な検討体制の下、各分野のデータベースとの連携に加え、UGCに係るプラットフォームが管理するデータベースとの連携についても検討する。さらに、既存のデータベースの充実、権利者情報の統一やフォーマットの標準化、データベースの紐付けに必要なID やコードに関するルール等を検討し、2023年内に結論を得る。（短期、中期）



出典：一般財団法人デジタルコンテンツ協会『デジタルコンテンツ白書2021』

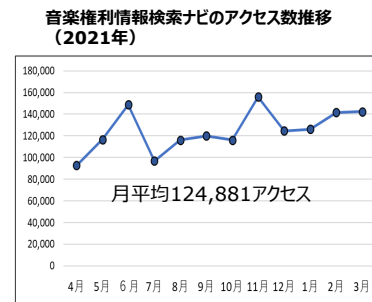
500時間
1分間にYouTubeにアップロードされる動画

6,500万人以上
日本で18-64歳の月間ユーザー数

8千万人超
ニコニコ動画登録会員数

出典：Google

出典：ニコニコ動画



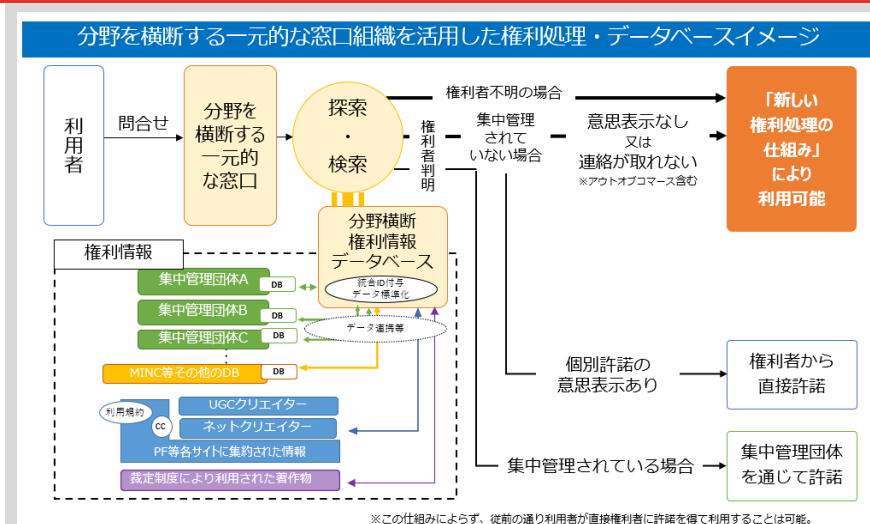
出典：一般社団法人音楽情報プラットフォーム協議会（MINC）2021年度事業報告書

事業内容

分野を横断する一元的な窓口組織を活用した権利処理に不可欠な「分野横断権利情報データベース」に係る調査研究を行う。

データベースの構築のためには、既存の著作権等管理事業者やその他の民間団体のDBとの連携が必須であるがそれらに含まれるデータ項目やフォーマット等はバラバラ。複数の分野にまたがる多くの分散したデータを集約して検索できるDBのあり方や構築のためのノウハウが存在しない。

- 検討会議の開催
拡張性に留意しつつ、DBを保有する各団体等と基本的な機能、システム構成、業務フロー等に係る調整
- 技術的な仕様の検討
・権利者情報の統一やフォーマットの標準化 ・IDやコードに関するルール
・検索項目 ・システム/データ連携 等
- 部分的な実証研究
裁定制度により利用された著作物や各団体等を通さずに登録される権利情報の集約に関する実証研究



アウトプット(活動目標)

- ・分野横断権利情報の集約化促進

アウトカム(成果目標)

- ・著作物に関する権利情報の探索コストの低減
- ・窓口組織による円滑な権利処理対応

インパクト(国民・社会への影響)、目指すべき姿

著作物の利用円滑化により、対価還元
の創出が新たな創作につながる「コン
텐츠創作の好循環」の最大化